

登録コード	AIY12100	開講年度	2026				
授業科目	山岳圏森林・環境共生学概論					担当教員	安江 恒 他
英文授業名	Introduction to Forest, Environmental and Symbiotic Science in Mountain Sphere						城田 徹央・大窪 久美子・堤 大三・三木 敦朗
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限	対象学生	農学部1年生
講義室	共通教育1 2 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 0 2 6 Aカリ, 2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】1. 【教養・基礎学力】 豊かな教養と農学分野における基礎学力が身についている。				⇔	現代社会における環境と人との共生について、様々な視点から捉え、視点の違いから派生する課題を抽出するために必要とされる基礎的知識を得ることができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース						
(4)授業の概要	森林、田園、社会を含む山岳圏における自然と人間との共生を考える上での基礎的な視点及び手法を学ぶ。						
(5)授業計画	1. 9/30：環境共生の時代：生物多様性とネイチャーポジティブ（城田） 2. 10/7：森林生態系：レジリエンスとレジームシフト（城田） 3. 10/21: 林業,林産業の現状(三木) 4. 10/28: 環境共生にむけた森林政策(三木) 5. 11/4:緑地と生物多様性(大窪) 6. 11/11:緑地生態の保全と回復(大窪) 7. 11/18: 緑地生態の管理(大窪) 8. 11/25：日本・世界の森林資源管理・利用（守口） 9. 12/2：樹木の形成と機能（安江） 10. 12/9：木材利用の社会的役割（安江） 11. 12/16：森林構成要素および林産物としてのきのこ（山田） 12. 12/23：気候変動と災害（堤） 13. 1/6：災害の防止対策（堤） 14. 1/13：農山村の人々の暮らしと環境（内川） 15. 1/20：持続的な農山村のための整備技術（内川） 授業アンケート						
(6)自主学習の指針	授業時間以外において，自主的に森林科学に関する情報の収集と理解に努めてください。						
(7)成績評価の基準	秀：授業の達成目標水準から見て卓越している．（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある．（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある．（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある．（60～69点） 不可： 授業の達成目標水準にない．（59点以下）						
(8)事前事後学習の内容	1単位当たり、45時間から授業時間を引いた時間量の自主学習時間が課せられています。担当教員の指示を参考にして自主学習を計画的に行ってください。また，必要に応じてeALPSに掲載される動画や資料を復習に役立ててください。また，自主的に森林科学に関する情報の収集と理解に努めてください。						
(9)テストやレポートの予定	原則、毎回の講義における小テストまたはレポートを予定しています。						
(10)成績評価の方法	小テストおよびレポートにより評価します。 毎回ごとに出席した上で小テストやレポートを提出した場合に評価の対象とします。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	各回の担当教員が講義終了後、あるいはメールにより受け付けます。 欠席等に関わる連絡は，各回の担当教員にメールにて行ってください。						
(12)履修上の注意	本講義は，経法学部と合同で開講されます。 受講申請者数が120名を上回る場合，受講制限を行います。必修以外の受講希望者において以下の要領で抽選を行います。 1）受講希望者は9月21日までに受講登録を行ってください。 2）その時点の受講登録者から抽選を行います。 3）9月24日までに受講の可否をメールにて連絡します。						
【教科書】	特にありません。						
【参考書】	必要に応じ，授業において参考書等を紹介します。						